

公営住宅での介護に配慮した高齢対応に関する研究

担 当 部 科 居住科学部住生活科、人間科学科

研究の目的 本研究は、ユニバーサルデザイン(UD)を視点とした道営住宅設計指針の改訂及び手引きの作成に伴って、在宅での介護に配慮した公営住宅等の具体的な設計手法について検討することを目的としています。

研究概要 今年度は、UD 公営住宅モデルプラン(道営住宅住戸標準・参考平面)をまとめ、実現化に向けた住宅部品の検討や、既設公営住宅に対する高齢対応方針について検討を行いました。

UD 公営住宅モデルプラン

検討では片廊下型住棟を基本に 1LDK、2LDK、3LDK のモデルプランをまとめました。モデルプラン住戸は従来の一般住戸と同程度の専有面積としつつ、介護への配慮として、車いすの乗り入れが可能で間仕切りを取り外すことのできるトイレや、介助者の同室就寝が可能な寝室空間など介護に求められるスペースを確保しています。



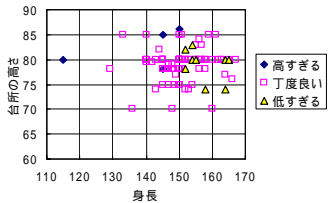
UD 公営住宅モデルプラン(2LDK,60㎡)

UD 公営住宅の住宅部品の検討

UD 公営住宅で使用される住宅部品の具体的な仕様の検討として、台所ユニットと洗面台についてシルバーハウジング入居者を対象に使用状況を確認し適切な仕様を検証しています。



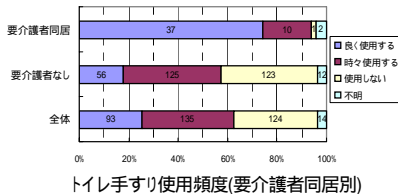
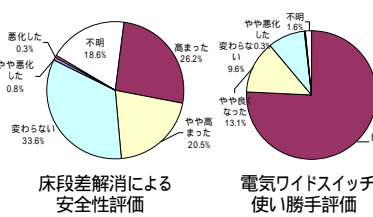
台所ユニット例と入居者のシンク高さ調整状況



使用者のシンク高さ評価と身長的相关(右)

既設公営住宅に対する高齢対応の検討

既設公営住宅に対する高齢対応方針である高齢者向け個別改善事業による改善効果を検証しました。検証した具体的な改善項目は、住戸内床段差の解消、トイレ・浴室・玄関への手すり設置、台所水洗シングルレバー化、電気ワイドスイッチ取替等で、各項目とも多くの入居者にとって日常生活の安全性・使い勝手の向上等の効果が確認されましたが、介護への対応の観点からは介護空間の広さの不足など既設公営住宅の住戸プラン上の制約もみられます。



トイレ手すり使用頻度(要介護者同居別)



「UDの視点に立った公営住宅等整備の手引き」(平成17年1月住宅課作成)

活用方法・成果 本研究の成果は道営住宅設計指針の改訂及び公営住宅等整備の手引きとしてまとめられ、同指針に基づき道営住宅整備が進められていますが、今後、市町村営住宅整備等においても高齢対応設計の支援を行っていきます。

ニーズ即応型研究